

第 62 回北海道歯科技工学術大会

平成 29 年 06 月 24 日（土） 旭川

演題 『 歯科技工にまつわる感染症対策 』

～市井の一歯科技工所での取組み例を示しながら～

<抄録>

既知の一般的な病原性微生物への感染対策は、医科では既に纏まり、この国では普及している。

他方、歯科には思考を届かせていない分野も残っている。加えて歯科の臨床現場にはコロイド系印象材や熱溶融性材料も多く、医科常識をそのまま適用すると容易に変形・溶解するため、歯科補綴作成等への要件を満たさなくなる。

歯科技工にまつわる感染症対策では、歯科技工士への教育問題は強く残るが、歯科技工所への構造設備方面への行政規範には最低限度の改善を得た。

今回は、感染対策を概観しつつ、歯科技工にまつわる感染予防への取り組みを史事に観ながら、歯科現実に相応しい継続できる対策をお示ししたい。



しもざわまさき
下 澤 正 樹 講師 略歴

- 1979年 東北歯科専門学校卒業、歯科技工士免許取得
- 1997年 厚生科学研究「歯科技工士の需給及び養成に関する研究」研究協力者
- 1998年 「日本歯技」第 354 号に『歯科技工士の感染環境と対策』寄稿
- 2003年 『歯科技工士のための感染教養と対策例』分担執筆
厚生労働省「医療技術派遣医師等で行う研修会」医師等派遣者
- 2005年 天皇后両陛下への歯科技工に係るご説明 随員
- 2016年 (公社)日本歯科技工士会 政策研究委員会 副委員長

歯科技工分野において感染予防が不足している点を主張し、投稿や日技活動を通じて公的費用による予防講習会を起こす活動を始め、公益活動とした。

2002年（北海道）から歯科技工士に向けた感染症予防講習を始め、以後、神奈川、熊本など多くの地で講師を務める。